

新型コロナウイルスの

「感染拡大防止」と「経済再生」

の両立を図りながら、

福井県長期ビジョンに基づく

県政を本格的に推進した1年

○ 県内の主なトピック

- ・ 新型コロナウイルスの感染拡大防止と経済再生
- ・ 全国高等学校総合体育大会(インターハイ)を開催
- ・ 県民の安心・安全
- ・ 進む高速交通網の整備

○ 長期ビジョンに基づく県政

「飛躍するふくい」の実現に向けた
2019～2024年度までの「新時代スタートアッププロジェクト」

- ・ ふくいエンタメ計画 ～ ふくいの魅力をとがらせよう ～
- ・ 次世代チャレンジ宣言 ～ チャレンジで未来をつくろう ～
- ・ しあわせアクション運動 ～ 一人ひとりがプレイヤーになろう ～

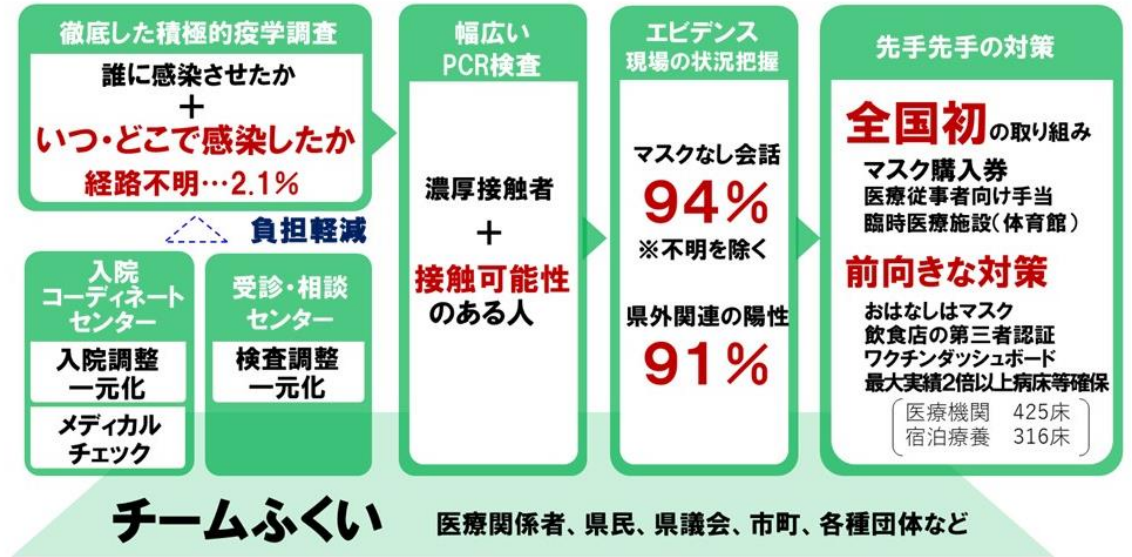
感染拡大防止

○チームふくいによる「福井モデル」

- ・ 県民向けの相談窓口や入院・検査調整の一元化により保健所の業務負担を軽減
- ・ 徹底した疫学的調査、幅広いPCR検査により早期発見・早期治療
- ・ エビデンスや現場の状況を把握し、先手先手の対策を実施

新型コロナ対策 福井モデル

早期発見・早期治療 → 感染拡大・重症化の防止



「おはなしはマスク」を呼びかける県作成CM

感染拡大防止

○ワクチン接種

- ・ 必要となるワクチンや医療従事者の確保・調整
- ・ 県営接種会場を設置
（夜間接種、小中高生の優先枠、予約なし接種、ワクチンバス）
- ・ 全国上位の接種率 約86%（若年層（12～39歳）約76%）



新型コロナワクチン接種

○先手先手の対策

- ・ 軽症者向けの臨時医療施設として体育館を活用

○新型コロナ対策で福井県が高評価

- ・ 菅首相が記者会見で福井県の取り組みを紹介
- ・ 医師が選ぶ新型コロナ対策 2回連続1位
- ・ 日経新聞のコロナ対応力調査 1位



軽症者用の臨時医療施設として準備された体育館

経済再生

○ 県内の消費喚起策として様々なキャンペーンを展開

- ・ デジタルバウチャー「ふく割」
- ・ ふくいdeお得キャンペーン
- ・ G o T o ショッピング
- ・ G o T o イート など



○ 経済団体と意見交換をし、事業者を支援

- ・ 福井県版持続化給付金
- ・ 中小企業者等事業継続支援金
- ・ 雇用維持緊急助成金
- ・ 雇用シェア など



雇用シェアについて企業代表者との意見交換
(2月4日)

54年ぶりの福井県でのインターハイ開催

○県勢が躍動

- ・ボートかじ付きクオドル（美方高校）やホッケー男子（丹生高校）
女子個人体操競技（鯖江高校 宮田選手）で福井県勢が優勝



久々子湖でのボート競技

○高校生ボランティアスタッフが活躍

- ・約3,500人が運営や競技補助として活躍
- ・221人の高校生活動委員が、大会開催2年半前から
広報活動や開会式での激励ステージなどを準備



総合開会式での歓迎演技（8月13日）

ドクターヘリ

○県単独 ドクターヘリの運航を開始

- ・ 県内どこでも概ね30分以内に医師が初期治療を開始
- ・ 運航7か月で229回の出動実績（12月22日現在）



5月24日に運航を開始したドクターヘリ

[救命・後遺症軽減効果（推定）]



運航開始を前に患者搬送手順を確認した訓練（3月19日）

症状	ドクターヘリあり	ドクターヘリなし (推定)	増減	効果 (%)
死亡	31	37	△ 6	16%減
重症（後遺症あり）	19	30	△ 11	36%減
重症（後遺症なし）	30	13	+ 17	—
中等症・軽症	71	71	± 0	—

※ 10月末までの搬送患者151事例をもとに、実際の予後と、仮に救急車で搬送したとして県立病院医師が推定した予後と比較

原子力

○40年超運転再稼働(美浜3号機、高浜1、2号機)

- ・ 県原子力行政三原則に照らして、一つ一つ丁寧に確認した上で、総合的に勘案し、4月28日に再稼働に同意
- ・ 発電所とのテレビ会議や起動、並列など重要局面では、職員が現地に立ち合い、事業者の対応を確認

○原子力総合防災訓練

- ・ 美浜発電所での発災を想定し、約320人の住民が参加
- ・ コロナ対策として、収容人数超過を想定し、追加の避難所を開く手順などを初めて確認



原子力発電所を現地視察（4月24日）



コロナ対策を講じた避難所での訓練（10月30日）

大雪

○1月7日～10日 嶺北地方を中心に大雪

- ・ 県内初の「顕著な大雪に関する福井県気象情報」発令
(福井市で最大107cm、大野市で166cmの積雪を記録)
- ・ 県民生活への影響を最小化するための対策を実施

- ・ 除雪オペレータの確保
- ・ 広域応援の受け入れ体制の構築
- ・ 除雪状況の「見える化」

(ホームページへの除雪進捗状況表示、市町除雪機械へのGPS導入支援、道路状況確認カメラの増設など)



令和3年1月大雪時の除雪の様子



「みち情報ネットふくい」での除雪状況を見える化
(11月29日運用開始)

北陸新幹線

○2年後に迫った福井・敦賀開業

- ・ 工程・事業費管理連絡会議にて情報共有
- ・ 金沢敦賀間の土木工事が完成
- ・ 新駅の名称が「越前たけふ駅」に決定
- ・ 新駅舎での現場見学会が開催

○敦賀以西の整備促進

- ・ 11月に北陸新幹線建設促進同盟会の会長に就任
- ・ 沿線自治体や経済界と協力し、令和5年度当初の着工を国に要請



新幹線駅舎（越前たけふ）現場見学会
（9月19日）



同盟会会長として初の国への要請活動
（11月9日）

並行在来線

○地域に密着した県民鉄道

- ・ 8月に鉄道資産等の譲渡について、先行県を上回る好条件でJR西日本と基本合意
- ・ 10月に経営・運行に関する基本事項を定めた経営計画を策定



JR西日本（長谷川社長）と基本合意（8月26日）

道路ネットワーク

○福井と中京圏を結ぶ道路の整備

- ・ 令和8年春の全線開通に向けて整備が進む中部縦貫自動車道大野油坂道路（大野・和泉IC間19.5kmは令和4年度開通予定）
- ・ 冠山峠道路は令和5年に開通予定



整備が進む中部縦貫自動車道（大野東IC（仮称）付近）

100年に一度のまちづくり

○新幹線駅周辺のまちづくり

- ・ 県都の玄関口「福井駅」前の「三角地帯」でホテル・オフィス棟の建設がスタート
- ・ 福井駅西口の歩道で、賑わい創出につなげる社会実験「ふくみち」の実施
- ・ 芦原温泉駅(賑わい施設)、越前たけふ駅(道の駅)、敦賀駅(知育・啓発施設)など各市で特色あるまちづくり



福井駅西口再開発（イメージ）



社会実験「ふくみち」で賑わう福井駅前の歩道
(10月2日～17日)

観光客の心をつかむ魅力づくり

○観光魅力度ランキング総合満足度2位

(じゃらんリサーチセンター調査)

○ブランド米「いちほまれ」

- ・米の食味ランキング 4年連続「特A」獲得
- ・毎月1日を「いちほまれの日」として、キャンペーンを実施
- ・都市部での認知度アップのため、タレントの本田姉妹を起用した新CMを作成

○本県の代表食材を首都圏でプロモーション

- ・越前がれい ・若狭ぐじ ・甘えび
- ・新酒米「さかほまれ」を使った日本酒 など



いちほまれをPRする
本田望結さん、紗来さん
(ふくいブランド米推進協議会提供)



越前がれい極など本県の食材を使った
銀座食味会 (10月16日)

観光客の心をつかむ魅力づくり

○そば

- ・ そばがおいしい都道府県調査で1位を獲得
(インターネットメディア「ねとらぼ」調査)
- ・ ネット番組に生出演し、「おろしそば」を
トップセールス
- ・ ゴディバジャパンと「ふくいそば×チョコレート
マリアージュ」キャンペーンを展開

○オーベルジュ誘致

- ・ 宿泊機能付きレストラン(オーベルジュ)誘致のため、
民間企業と開発協定を締結



おろしそばを味わう稲垣さん、草薨さん、香取さん
(4月4日) (ABEMA提供)



ゴディバジャパンのシュシャン社長に
「フクイブランド・グランシュバリエ」を委嘱
(11月19日)

観光客の心をつかむ魅力づくり

○福井県観光開発プロジェクト

- ・ 県、JR西日本、大手旅行会社8社が連携して発足
- ・ 令和4年3月頃に都市圏発の春・夏向け旅行商品を販売開始予定



観光開発プロジェクトキックオフ会議
(11月4日)

○恐竜博物館

- ・ フルモデルチェンジのシンボルとなる 卵型ドームの「小タマゴ」増築開始（令和5年夏オープン予定）

○年縞博物館

- ・ 博物館の振興に貢献し、模範的な成果をあげている施設を表彰する日本博物館協会賞を受賞



令和5年夏のフルモデルチェンジに向け整備が進む恐竜博物館（外観イメージ）

観光客の心をつかむ魅力づくり

○ジャパンエコトラック

- ・ 大野市、勝山市、永平寺町を中心とする
九頭竜川・荒島岳エリアが県内で初めて登録
※アウトドア用品メーカー「モンベル」と
県内アウトドアを推進する包括連携協定を締結

○若狭湾サイクリングルート推進協議会

- ・ 嶺南地域への誘客と国のナショナルルート指定を目的として、国、県、嶺南各市町、観光協会などで設立
- ・ ルートはJR敦賀駅～若狭高浜駅まで約130km



九頭竜湖でのカヤックカヌー



サイクリング

文化とスポーツで福井を盛り上げ

○音楽があふれるまちづくり

- ・ コロナ禍で発表の機会を失ったアーティストに表現の場を提供する「みんなのホールプロジェクト」や福井市中心部での「おとまちフェスティバル」などを開催



おとまちフェスティバル (ハピテラス)

○一乗谷朝倉氏遺跡 (特別史跡指定50周年、特別名勝指定30周年)

- ・ 「名誉お屋形さま」に委嘱した落語家の春風亭昇太さんを招いた新博物館開館 1 年前イベントを 10 月に開催

○南越前町で 2 か所が国の文化財に選ばれる

- ・ 今庄宿 (重要伝統的建造物群保存地区)
- ・ 湯尾峠 (名勝「おくのほそ道の風景地」)



春風亭昇太さんに一乗谷朝倉氏遺跡「名誉お屋形さま」を委嘱 (7月8日)

文化とスポーツで福井を盛り上げ

○東京オリンピック・パラリンピック

・ 新型コロナの感染対策を徹底した上で181人のランナーがつないだ聖火リレー

・ 県勢として初の複数の金メダル獲得

見延 和靖選手（フェンシング男子エペ団体）

吉田 正尚選手（野球 サムライジャパン）

栗原 陵矢選手（野球 サムライジャパン）

・ 金メダルを獲得した3選手に県栄誉賞を授与

・ 世界バドミントン選手権大会女子シングルスで優勝した

山口茜選手には「県スポーツ特別賞」を授与

（贈呈式：令和4年1月6日(木) 15:00～）



聖火皿に火をともしランナーの高橋愛さん（5月29日）



見延選手への県栄誉賞贈呈式（12月11日）

文化とスポーツで福井を盛り上げ

○ふくい県民応援チーム

- ・ 県内5つのトップスポーツチームに委嘱した県民応援チームの愛称が「FUKUI RAYS」に決定

○魅力的なスポーツイベントの開催を計画

- ・ フルマラソン「ふくい桜マラソン」

(北陸新幹線福井・敦賀開業後の春に開催予定)

- ・ 県内のマラソン大会に県民の皆さんが参加するきっかけとなるよう「オクトーバー・ラン・アンド ウォーク 2021 福井大会」を開催

- ・ 日本スポーツマスターズ (令和5年開催予定)

- ・ 35歳以上を対象とした全国スポーツ大会
- ・ 17,000人の選手達が来県見込み



「FUKUI RAYS」発表 (3月28日)



フルマラソン大会名称・スローガン発表 (7月21日)

DX推進

○スマート福井の実現

- ・ 県のDXの司令塔としてNTTドコモからDX推進監を招き、生活・産業・行政の各分野のDXを推進

(生活のDX)

- ・ コロナ対策でのワクチン接種の予約状況見える化やテレビ電話を用いた健康観察 など
- ・ SNSを活用した災害時の避難所運営
- ・ 除雪状況や隠れた交通エリアの「見える化」 など

(産業のDX)

- ・ ふくいDXオープンラボ開設
- ・ ふくいIT養成エンジニア養成スクール開講 など

(行政のDX)

- ・ 全庁的なRPAの取り組みにより年間1万時間の業務時間削減
- ・ コロナワクチン接種システムを職員が構築 など



福井県のDX推進のシンボルマーク



ふくいDXオープンラボ (6月14日開設)

多様な企業誘致の推進

○トップセールス

- ・ 大手化学メーカーA G Cが若狭町に新たな工場を増設
- ・ 世界初の全樹脂電池を量産するA P Bの福井センター武生工場が10月に開所



A P B 福井センター武生工場

○若者にも魅力的な企業を誘致

- ・ 東京都内のI T企業（スタイル・エッジ、ゼロフィールド）が新たなオフィスを県内に開設

○全国初の「高付加価値企業」誘致の補助制度を創設

- ・ 企業誘致の考え方を「量から質」に転換



新たに進出した企業のオフィス
(スタイル・エッジ・グループ提供)

成長産業へのチャレンジ応援

○宇宙

- ・ 3月に県民衛星「すいせん」の打ち上げ成功
- ・ 撮影した衛星画像の利活用の推進



「すいせん」が初めて撮影した写真（4月26日撮影）



「すいせん」打ち上げを見守る関係者（3月22日）

○ウッドチャレンジ

- ・ 県産材を率先して利用する企業を登録する「ふくいの木づかい企業」制度を開始

○エネルギー

- ・ 官民協働組織「嶺南エコースト室」を敦賀に設置
- ・ 原子力リサイクルにおける全国初のビジネスモデルを推進
- ・ 県内の原子力発電所立地地域の将来像を議論する「共創会議」がスタート



福井県経済団体連合会（八木会長）とふくい県産材利用促進に関する協定を締結（10月22日）

社会全体で子育てを応援

○「ふく育」応援事業

- ・ ふく育応援団店舗（県内約1,500店舗）で「ふく育パスポート」を提示すると割引や特典などのサービスを開始



ふく育パスポート（10月1日スタート）

○全天候型の遊び場

- ・ 各市町の屋内遊び場整備を支援
- ※第1弾としての道の駅「南えちぜん山海里」

○子どものプレゼン能力を向上

- ・ 一般社団法人プレゼンテーション協会と連携協定締結
- ・ 初の「全国高校生プレゼン甲子園」を開催



道の駅「南えちぜん山海里」キッズルーム（10月8日オープン）

県民の夢実現を徹底応援

○地域の活性化を目指す活動をバックアップ

- ・「県民ワクワクチャレンジプランコンテスト」
参加プランを実現に近づける取り組みを開始



プラン実現に向け助言を行う地域事業家

○県内の若者を応援

- ・県庁内に若者同士のマッチングや情報を発信する
「チャレンジ応援ディレクター」を新設
- ・若手県職員で構成する「チャレンジ応援チーム」を結成



チャレンジ応援チームを結成（5月19日）

SDGs

○SDGs 未来都市に福井県が選定

- ・ 持続可能な地域づくりを進める自治体として5月に国が選定
- ・ 福井県は「次世代に選ばれる『しあわせ先進モデルふくい』の実現」を提案



SDGs 未来都市選定証

○広がるSDGs

- ・ 認知度向上のため積極活用している「福井県版SDGs 公式ロゴマーク」の愛称をジュナナに決定
- ・ 「都道府県SDGs 認知度ランキング」で福井県が総合1位を獲得（日経BP総合研究所による調査）



SDGs について学ぶ丸岡南中学校の校外学習

都市部への攻めの移住政策

○新ふくい人

- ・ 県内に県や市町の支援を利用して移住した方が初の1,000人を突破（令和2年度）

○人が人を呼ぶ移住

- ・ 県内市町に移住した方に「移住サポーター」を委嘱
- ・ 新たに設置した県外事務所を活用し、大学との連携協定などを推進

- ・ 京都事務所：県外出身者の多い京都府で営業強化
昨年6月の開所以来、関西圏で13大学と協定締結
- ・ 名古屋事務所：企業誘致やU I ターン、観光誘客の拠点として
9月1日に開所



移住サポーターとの意見交換（6月8日）



名古屋事務所開設記念
「福井県企業立地・港セミナー in 名古屋」
(11月8日)